



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア:社会事情 (ギャロップ社によるサウジ人女性の権利を巡る世論調査)
(8月24日付オカーズ紙)

2007年12月に米世論調査会社ギャロップ社が発行したサウジにおける女性の権利への支持に関するレポートを踏まえ、8月24日付オカーズ紙がサウジ人の見方についての論説を掲載した。尚、ギャロップ社のレポート概要は2の通りで、同レポートは、サウジにおいて1006名の成人(15歳以上)との対面式のインタビューにて2007年6~7月にかけて行われており、サウジの女性の権利に関する世論に焦点を当てつつ、エジプト及びイランといった近隣イスラム教大国や欧米諸国との比較を見ることができる。(エジプトでは2007年7月に1024名と、イランでは2007年6~7月に1004名の各成人と対面式インタビューにて行われた)

1. 8月24日付オカーズ紙の論説

- (1) ここ数年、サウジアラビア社会では女性の権利をめぐる議論が数多く行われてきたが、国民はいまや、サウジ人女性をめぐる数々の問題を支配しているイスラム法源と文化的慣習の違いを認識している一方、政府高官は、社会が更なる改革を受け入れる準備ができていないとして各種決定の裁断を先延ばしにしている。
- (2) 2007年12月21日、米ギャロップ社が女性問題に関するサウジ人の動向調査を発表したところ、サウジ人男性の多数は女性の権利を擁護しているとの結果であった。主な内容は、55%の男性と66%の女性は女性の運転を支持、75%の男性と82%の女性は女性が家の外で仕事に就くことを支持、83%男女共が女性の収入は女性自身らで保持することを支持、66%の男性と79%の女性が男女同権を支持、52%の男性と66%の女性が、政府機関にて女性が主導的立場を占めることを支持、との結果であった。
- (3) 同レポートの末尾には、サウジ人男性が自分たちの権益に反するにも関わらず、女性の諸権利を擁護していることは特筆すべきこととし、また「カティーフの少女事件(3. 補足参照)」騒動後、サウジ人男性は女性の権利を今まで以上に支持していると記されている。
- (4) 我々が自国民の世論等を知るために、ギャロップといった海外の研究成果に当たらねばならないことは残念なことであり、更に皮肉なことに、我々サウジ国民の世論動向に関し、なんら科学的統計的手法を用いた調査を耳にしていない。我々は独自の世論動向を捉える独立した機関を有するべきである。本調査結果に照らして、更なる改革や当国における女性の状況に質的向上が見られるようになるであろうか。

2. ギャロップ社レポートの概要

- (1) 「カディーフの少女事件」は、事件の被害者に対する判決の不公平さに国際的な関心が集め

られたが、本件のみを以てサウジにおける女性の権利に関し語ることはあまりにも単純であり、またサウジ人全般の女性に対する態度とみなすのは適切ではない。女性ほどではないにせよ、サウジ人男性の多数が女性の権利擁護を支持していることは特筆すべきことである。今般の調査結果を受け、欧米の研究者らは、サウジにおける政府による女性の自由を制限するイスラム法の解釈と、一般サウジ人の見方とを混同すべきではない。

(2) また、父親は離婚後、たとえ養育権が母親に渡ったとしても子供の経済的支援にすべての責任を負うべきかとの問いに対し、男性 88% 及び女性 89% が支持を表明した。

(3) 上記 (2) の同一の質問事項に対するエジプト及びイランの回答とを比較し、サウジでは、一般的に各種調査項目における支持率における男女間の性差が少ない。また女性の収入は女性自身で保持すべきとの項目においては、欧米（ドイツ・英国）ではそれぞれ 38% と 34% であったのに対し、サウジでは男女ともに約 83% という高い支持率となっており、（たとえ妻に収入があったとしても男性が経済的責任を一手に引き受けることになっているイスラムの教えに基づいての結果である）

3. 補足「カディーフの少女事件」

2007-11-16（金）

サウジのカディーフ総合裁判所は強姦被害者の女性に対し、親族以外の男性と車に同乗した罪により禁固 6 カ月、鞭打ち 200 回の有罪判決を言い渡した。判決は、被告が報道機関を通じて司法を挑発し判断に影響を与えようとしたとの理由で通常の 2 倍となっている。2007-11-19（月）米國務省の報道官はサウジの裁判所がレイプ被害者の女性に対し通常の 2 倍の刑の有罪判決を言い渡したことについて、サウジに対する直接的な批判をしなかった。

2007-11-25（日）

サウジの法務省はレイプ被害者の女性に姦通罪で有罪判決が下された問題について、問題の女性の服装が事件を誘発したと主張する声明を発表した。

2007-11-26（月）

サウジのサ우드外相はレイプ被害者の女性が親族以外の男性と車に同乗した罪で有罪判決を受けた問題について、悪い判決が出たと論評した。

2007-11-27（火）

サウジのサ우드外相は強姦被害者の女性が親族以外の男性と車に同乗した罪で有罪判決を受けた問題について、サウジの司法府は本件を見直すであろうと述べた。一方、同外相はこの問題はサウジ政府と人民に対する攻撃に使われていると述べた。

2007-12-04（火）

米国のブッシュ大統領はサウジで強姦被害者の女性が親族以外の男性と車に同乗した罪で有罪判決を受けた問題について、判決に怒りを覚えると述べた。

2007-12-17（月）

サウジのアブドゥラー国王は強姦被害者の女性（19 歳、シーア派）が親族以外の男性と車に同乗した罪で有罪判決を受けた問題について、この女性に恩赦を与えた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799